

も

う四〇年以上も前の話であるが、学生時代の奨学金と言えば「育英会」

を思い浮かべる。久し振りに奨学金の話を聞いたのは、六年前に昭和飯田川ロータリークラブに加入した時である。県庁職員であるA君がアメリカのハーバート大学に留学をしたので、ロータリーの奨学金をもらいたいとの申し出があった時だ。

ロータリー財団は「青少年育成」の方針で、留学生に奨学金を支給している。A君は飯田川町の出身なので、スポンサークラブとして昭和・飯田川ロータリークラブに相談にいられた。クラブとしてお世話することになり、A君は一年間の奨学金を受けることが出来、留学した。その後は学業に励み、卒業され、帰国し日本の企業に就職されたと聞いている。と聞いているが、その後の消息はわからない。

その後、奨学金を意識したのは、二〇〇九年一〇月に開催された国際ロータリー第二五四〇地区年次大会の時である。米山奨学金をもらっていた中国の〇〇君が地区大会で卒業後の活動と秋田に留学していた時の思い出そして感謝の気持ちを披露された。その話を聞いたときは、その熱い思いにこちらも感動してしまった。

米山奨学生は、アジアの国々から日本に留学された学生に支給されるもので、他の

## 米山奨学生って

### 何だろう



シャインプラザ平安各秋田（二〇一〇〇三一一三）

奨学金に比べ支給額も高いようだが、他の奨学金ともうひとつの違いところは留学生一人一人にカウンセラーがいることだ。

カウンセラーは留学生の生活面で個人的な相談相手になる人だが、ロータリアンである。そして、相談だけでなく里親的なこととしていようだ。卒業後は日本のお父さん、お母さんとしてのお付き合いが続いている例が沢山あると聞く。また、月に一度、カウンセラーの所属するロータリークラブの例会に出席し、その時、一カ月分の奨学金をクラブ会長から手渡されるが、お金だけでなく、人の繋がりが持たれるのが米山奨学会の大きな違いである。

米山奨学生の送別会に参加した。卒業生ひとり一人から、感謝の言葉を頂いたが、カウンセラーの方からの言葉をご紹介したい。「ロータリアンとして、カウンセラーとして奨学生のお世話をしているが、一番うれしいのは、奨学生から若さを頂くことです。アジアの留学生は学ぶことに強い熱意を持って日本に来ている。その熱意に触れることで自分自身も若返るような気がする」と言うのである。

なんとも嬉しい話ではないか。お世話するほうも、されるほうにも、人と人の絆が生まれる。こんな絆をもっと多くの留学生に味合わせたいものだ。（ドデシタ）